

学校だより 7月号

令和5年6月30日
鴻巣市立小谷小学校

【学校教育目標】

夢・希望にあふれる心豊かな児童の育成

小谷っ子

TEL 048 (548) 1004

FAX 048 (547) 1467

URL <https://koya-e-konosu.edumap.jp/>

e-mail koya-e@city.konosu.ed.jp

毎月19日は「食育の日」です



小谷っ子の体力について

校長 棚澤 大輔



6月4日に行われた運動会は、前日までの雨が空をきれいに洗い流し、当日は素晴らしい晴天の下実施することができました。早朝より保護者の皆様には子どもたちのお昼の準備や送り出し、また、運動会実施にあたっての準備や片付けおよびPTA役員としてのご協力、そして何よりも子どもたちへの応援をありがとうございました。おかげさまで子どもたちは全力で、これまでの練習の成果を発揮することができました。

児童会長を先頭に、紅白の応援団長とともに入場してきた子どもたちの様子を、校長として一番良い位置（朝礼台上）で見させていただきましたが、真剣で凛々しい表情で行進してくるその様は、これから始まる運動会への期待と頑張るぞという意欲を大いに感じさせるものでした。実際、そのあとの種目への取組は大変立派で、子どもたちの成長に胸を熱くする場面が何度もありました。

入学して2か月しか経っていない1年生は、ルールや演技をしっかり覚え、元気いっぱい運動することができました。2年生は1年生をリードし、一つ上の先輩として堂々とした演技を見せてくれました。3年生の学年競技では、競争をしている中であっても、ペアを組む相手のことを思いながらボールを運ぶ姿がとても印象的でした。4年生の「小谷人ぬ宝」では、練習を繰り返す中で隣の友だちと息を合わせた動きができるようになり、3年生にもよいお手本となりました。5年生の玉入れでは、必死になって先生の背中のかごを追いかけ、夢中になって運動に親しむ姿を見ることができました。そして6年生。表現「絆・団結」では、フラッグを巧みに操り、伸ばすことや縮むこと、動くことと止めること、スピードといった動きのメリハリをつけ、旗の音までそろった、まさに「絆・団結」を感じさせる表現でした。



運動会で見られた子どもたちのこうした成長の様子は、5月からの練習をよく頑張って取り組んできたからこそ、です。しかし、動くことの元となる、いわゆる「体力」はそれ以上の積み重ねがなければ身につかないものです。運動会練習だけではない、学校や家庭でのこれまでの体力向上に向けた取組や日頃の体育授業などが元となり、立派な演技ができたものと考えます。

また、競技以外でも素晴らしいと感じた4・5・6年生の係活動の取組やみんなで仲間を応援する態度、きちんとした整列や挨拶も、運動会の練習だけで身につけたものではなく、これまでの学校や家庭、地域での生活の中で身につけてきたものが発揮されたものだとは私にとらえています。一事が万事。日々の小谷っ子の頑張りが結実した運動会であったといえるでしょう。

さて、運動会が終わった後、本校では「新体力テスト」を実施しました。50m走やボール投げ、立ち幅跳びなど8種目について毎年計測しているものです。埼玉県では「埼玉県5か年計画」（R4～R8）の中で、子どもたちの体力向上に関する施策指標として、この体力テストの評価割合を令和8年度までに「85%以上基準を超えること」とすることを目標として掲げています。コロナ禍も影響し、ここ数年低迷しているところですが、県平均は令和4年度で77.4%。こうした中で本校は今年度96%という結果でした。この好結果も、体力テストに向けた練習をしたからというわけではなく、日頃の体力向上の取組や生活ぶりの成果です。ちなみに、本校はここ5年以上90%以上を保ち続けているところです。



生きていく中で、健康な体を保つことはとても重要なことであり、ある程度の体力の維持は不可欠です。このことは成長期である子どもにとっては特に大切なことです。この大事な時期に、体を動かすことの経験が乏しかったり、そもそもの興味関心が低かったりすると、健康に必要なことと分かっていても大人になってから日々の生活の中で運動を取り入れようとするのはなかなか難しいのではないのでしょうか。本校の子どもたちが日頃の運動の機会を楽しみ、体力を伸ばしていることは、これからの予測困難な時代を生きていくことになる世代としてたくましさを感じます。本校といたしましては今後も、運動会などの体育的な行事や日頃の体育授業でそれぞれの目標をもって取り組むことや、運動やスポーツがもつ楽しさに触れるような教育活動を推進してまいります。